

姫路文学学校準備室の案内

日時・5月22日(月曜日)13時30分～17時

会場・ブックカフェギャラリー・クワイエット・ホリデー(Quiet Holiday)2階

姫路市本町68番地／姫路駅からみゆき通り商店街を北へ徒歩7分。国道2号線(東行一方通行)を渡り本町商店街の一本目の角を西に30メートル進む。内藤広告西隣「クワイエット・ホリデー」の2階。

※6回目は大橋愛由等氏(詩人／俳人／編集者)による講義。神戸市出身。1955年生まれ。図書出版「まろうど社」代表。年一回は奄美・沖縄を訪ね、地元新聞「南海日日新聞」に長年コラムを連載。姫路文学学校準備室の共同運営者で、一年振りの登場です。

今回のテーマは「ダダ、パリへーダダ百年考」

今年(2023年)は、ダダを先導した詩人トリストラン・ツアラ(1896-1963)が、スイス・チューリッヒから、パリに本格的に拠点を移して百年になります。ダダは「反芸術」を標榜し、文学だけではなく、美術の世界とも連動して、大きなムーブメントを起こしました。ダダの活動そのものは、シュールレアリスムに収束されて終わったかのような評価がありますが、その〈非中心性〉などの性格から、パリを超えて、(日本を含め)世界各地に同時的に拡散。その〈反〉と〈非〉の表象世界が持っている普遍性ゆえに、ダダの精神は、現代にいたるまで、間欠泉的に、文学や美術を表現する者たちに、リゾーム的に系統されている、と評価しています。今回の語りでは、ダダが目指そうとした文学・表現のありようを振り返ることで、ダダの普遍性を考えてみることにします。(大橋記)

※参加には、自作の詩歌又は小説、エッセイを持参。15部程コピーして下さい。

持参できなくても合評会には参加し発言して下さい。

1部の講師には500円のカンパ、ワンドリンク発注が必要です。長時間でもあり菓子等の持込は可能。

自作の作品は当日に配布するので、詩は1～2篇。俳句・短歌・川柳は10句、10首程度。

小説、エッセイは1200字(原稿用紙3枚)程度。

1部講座は13:30より質疑応答含め1時間30分程度。休憩を挟んで17:00まで創作合評。

楽しくワイワイとやります。

◎予告・第七回◎

日時・7月24日(月曜日) 13時30分～17時

会場・ブックカフェギャラリー・クワイエット・ホリデー(Quiet Holiday)2階

第一部講義・神尾和寿(詩人・哲学者)

テーマは「詩と哲学―世界の表現的自己形成としての詩作(西田哲学を手がかりとして)―」

主催・姫路文学学校準備室、書肆風羅堂

連絡・姫路市西今宿3-1-9-702(書肆風羅堂)

電話090-3714-9387(大西)